



今年もあっという間に2カ月が過ぎようとしています。この冬は、長野市はまとまった雪が降らず、安心していましたが、2月第二週になって、大寒波となり、しっかりと降りました。さて、「まちかど図書館ぼたん」では、来館された皆様に、自由に書いて頂くノートがあります。1月のノートには、嬉しい言葉が一杯。あまりの嬉しさに、ニュースレターの冒頭に、少しご紹介させていただきます。「25.1.22物思いに耽りたい時、ここの本を読むと落ち着きます。この時期は気分が塞ぎ込みがちですが、リフレッシュがてらまた訪ねようと思います」（N様）、「25.1.22店番をしていた友達が今日でラストです。ぼたんはたくさんの思い出でいつのまにか大好きになった場所でした。またその友達と来たいです！」（M様）、「25.1.22今日はじめてぼたんを訪れました。入った時の雰囲気があったかくて、棚のボタンがかわいくてステキでした！この場所に来る人もきっとあったかい気持ちになって帰るんだろうなーと感じました。またこの場所に友だちとみんなで来たいです^_^」（K様）などなど、皆様のお言葉が暖かく、私たちもジワッと来ています。

Topic 01 第二回イベント、開催しました！

2024年1月26日（日曜日）に2回目となるイベントを行いました。今回は、市立長野高校2年生の石井翠（市立長野高校図書委員長）さんに、パワーポイントを用いて、「これからの図書館」という研究報告をして頂いた。当日は、前回に引き続き青木様、内田様、前回のイベント後に新しくオーナーになって頂いた攪上様の3人のオーナー様に加え、TMOまちづくり長野の宮島さん、築山ゼミ学生1名、教授の計7名が参加しました。

「高校2年生による研究報告会：市立長野高校の翼プロジェクト」

今回の研究は、高校の「翼プロジェクト」によるもので、同プロジェクトは、「産業社会と人間」（高校一年）、「課題探究プログラム」（高校二年）という二つの授業を貫く市立長野高校オリジナル授業のことで、翼は市立長野高校校歌の名称「翼あるもの」に由来している。「翼あるもの」は生徒自身で、翼は学びそのものでしょう。石井さんは、一年次は、友人と共に「保護猫ハウス信州猫日和」（長野市南県町1080）で世話や掃除を体験した。若者の居場所づくりや農業体験をする学生もいた。「課題探究プログラム」では、国際文化、アート、ライフ、心理、医療、言語文化、ビジネス、テクノロジー、まちづくりなどたくさんの分野に分かれ、さらに、生徒たちは具体的なテーマに沿って探究活動をする。石井さんの分野は「まちづくり」。石井さんが「これからの図書館」というテーマを設定した理由は、「小さいころから図書館が好きだったこと」、「最近の図書館のニーズを知りたかった」こと。

「図書館は変わりつつある！ 人をつなぐ、地域の方々に支えられている図書館」

高校の中間発表では、長野市立図書館と長野南部図書館でのインタビューを基に報告。“今、図書館は、本を借りるだけの空間から人と関わりを持てる空間に変わりつつある”、講演会やワークショップ、読み聞かせや夏祭りなど多様なイベントを開催、そして、それらのイベントや本を書架に戻すことなども含めて、地域の人々によって支えられているのだ。南部図書館は、住宅街に立地し、とても活気があり、移動図書館を運営することで、中山間地の人々にも本を届けている。

「みんとしょという私設図書館、まちかど図書館ぼたんの意味」

中間発表で先生から、民間運営の図書館「みんとしょ」や長野県立大学築山教授へのインタビューをすることのコメントを頂き、「まちかど図書館ぼたん」を知る。「本を借りるだけではなく、貸す側になる」ことに驚き。見るだけでもOKという点は、「図書館は住民にとってまちづくりに参加するハードルを下げる役割がある。」「本を介してのコミュニティが形成されている」、「人と人が交流できる図書館は貴重な空間」、「図書館がまちづくりの拠点として使われている」、「多様な世代・属性の方が集まることで多様な人間関係が構築される」、「座談会などを通してさらに関係が深まる」などと指摘された。

石井さんは、子どもの頃、お母様と一緒に県立図書館に通っていたが、静かな場所で疎外感があるような場所だったという。今の図書館は、昔と違って子どもたちの声も聞こえるようになってとても良くなったと。

「図書館や本が果たす変わらない役割」

発表後の質疑応答では、バリアフリー絵本研究家の攪上様が、カナダの図書館に行かれたばかりで、子どもフロアの半分は、木製品が置かれた遊園地のような自由な空間となっていることをご紹介頂きました。また、日本の図書館が、子育て世代のお母さんたちをエンパワーしてきた歴史や「ブックスタート」活動について、今の子供向け絵本と昔の子供向け絵本の違い、さらには、図書館も本も多様化しているが、そのようななかでも変わることがない本の役割として、“人のつながり”というものがずっとあるのではないかと多くの貴重なお話を頂き、参加者の皆さんも質問を挟みながら、興味深い内容で、図書館や本について考え直す機会となった。



「今はない、懐かしい長野市のまちの本屋さんたち」

イベント後半には、築山教授がこれまでのぼたんの活動の経緯を、図書館オープンの日を使用したスライドを用いて説明。本棚が入る前の状態や、本棚を作っている学生の写真を初めて見て、感嘆の声を上げてくださる方もいらっしゃり。また、他の「ことのは」(金沢市)や「Cの辺り」(茅ヶ崎市)などのみんとしよの状況についても解説された。また、かつて長野市にあった本屋さんや街の変化などを捉えるために、古くは1880年代、そして、1960年代、1970年代、1980年代、1990年代、2000年代の長野市地図(1880年代以外は住宅地図)の複写を参加者の皆さんに配布し、話合った。たくさんの方の本屋があり、それが消えてしまったことが惜しまれる。みなさん、今は閉店してしまったけれど、思い出いっぱいの本屋さんについて、教えてください。いつか、長野市の昔の本屋さん地図を作りたい。

「みんとしよという希望、改めて図書館の意味を知る」

・学校以外の場所で初めて報告して、多世代の方に意見をもらえていい機会になりました！・高校生の方の発表や大学生が運営していることで、希望を感じました！・改めて「みんとしよ」の意義を見出せることができました！こんなふうになっていったらいいなという夢や妄想が広がっていくのが楽しかったです！・図書館の本を読んでは、頭に入っていないから、本を買い続けてきたが、図書館に関するいろいろな話を聞くことができ、図書館に対しての視界が広くなり、今度、図書館に行ってみようと思うようになりました！

「築山ゼミ生より」

今回は前回よりも少し砕けた雰囲気自然と参加者の皆さん同士に会話が生まれており、一歩ずつ私たちの目指す姿に近づいていると感じました。これからも楽しいイベントを毎月開催していけるように運営に尽力していきたいです。

Topic 02 オーナー様エッセイ No. 2

はじめの一冊

内田今朝男

「まちかど図書館ぼたん」の存在を知ったのは、昨年10月の『週刊長野』の記事でした。早速出掛けました。オーナーになることを決めて、どんな本を並べようか考えました。

運営は県立大学の築山ゼミナールの学生さんということですので、学生に読んで欲しい本を選んだつもりでした。たまに図書館ぼたんに出掛けて様子を視ると、ほとんど読まれていないようです。何故だろうと思います。

世代の違いだけなのか。それだけではないと思います。私が若かった1970年～80年代と比較すると本を手にとること自体がなくなっているということでしょうか。

その原因は、パソコンから携帯電話そしてスマートフォンへと普及しました。スマホそのものの自体が携帯に特化したパソコンです。インターネット、SNSに接続し便利な社会になりました。これからの社会を生き抜くためには、自分を律しないと大変な社会になってしまいそうな気がしてなりません。

本一冊を読み切れれば、必ず次の一冊となる可能性を秘めていると思っています。まずは、一冊手に取って読んでみてください。

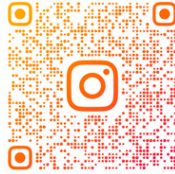
今後の図書館ぼたんのかかわりとして、例えば読書会などでできればと考えています。その場合は、運営にも参加させていただきます。

Topic 03 開館時間について

ホームページ



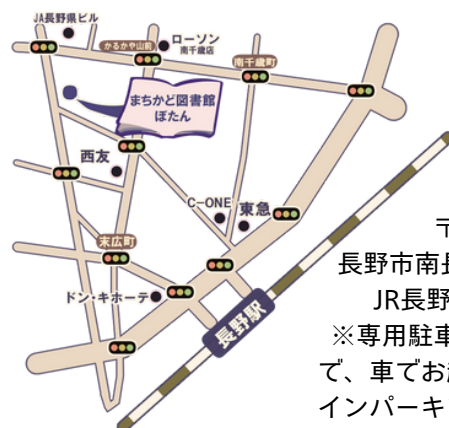
Instagram



開館時間は10時から18時までですが、ゼミ生と教員が店番をしている関係で、その時間内で、可能な時間に開館しております。詳細はホームページまたはInstagramで確認をお願いいたします。

URL:<https://machinakabotan.com/www.machinakabotan.com/>

Topic 04 アクセス



〒380-0826

長野市南長野北石堂町1185-6

JR長野駅から徒歩7分、

※専用駐車場はございませんので、車でお越しの際は近隣のコインパーキングへのご駐車をお願いいたします。

2025年2月16日発行

編集：長野県立大学 グローバルマネジメント学部 築山ゼミナール

住所：〒380-8525 長野市三輪8-49-7 B309研究室

Tel：026-217-2241 (代表) fax：026-235-0026

E-mail：tsukiyama.hideo@u-nagano.ac.jp

